

科目名	西洋史	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	European History	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中	
ふりがな	なかむら たけし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	中村 武司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	ヨーロッパ史とヨーロッパ・アイデンティティ			
到達目標	西洋史についての基本的な知識や概念、考え方を理解するとともに、西洋史やヨーロッパ統合にかかわる諸問題への理解を深めることを到達目標とする。			
授業概要	ヨーロッパの歴史や文化に関心をもつ人間にとって、「ヨーロッパとは何か」とは、最重要の問いであるといえよう。本講義では、歴史学の立場からこの問題を考察し、ヨーロッパの定義や理念、帰属意識のあり方とその多義性を明らかにしたい。			
授業計画				
第1回	イントロダクション			
第2回	地理的ヨーロッパと政治的ヨーロッパ			
第3回	古代ギリシアは誰のものか			
第4回	ローマ帝国の遺産とヨーロッパ			
第5回	ビザンツ帝国と西ヨーロッパ			
第6回	カール大帝とヨーロッパの誕生			
第7回	神聖ローマ帝国とは何か			
第8回	ヨーロッパと世界帝国の理念			
第9回	ナポレオン帝国とヨーロッパ統合			
第10回	近世ヨーロッパと「トルコの脅威」			
第11回	ヨーロッパとロシアの拡大			
第12回	ヨーロッパの「東」と「西」			
第13回	イギリスと「他者」ヨーロッパ			
第14回	ヨーロッパ・アメリカ・西洋文明			
第15回	まとめ——ヨーロッパ史とヨーロッパ意			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	授業後、参考文献等を確認したり、ノートを整理したりするなどして、復習の時間（1回あたり1.5～2時間程度）を設けること。			
履修条件 受講のルール	事前に高校世界史の内容を復習して履修するほうが望ましい。 なお、レジュメ等の資料は再配布することはないので、くれぐれも注意すること。			
テキスト	授業中にレジュメ等の資料を配付する。			
参考文献・資料	谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』（山川出版社、2003年）。 クシントフ・ポミアン（松村剛訳）『増補・ヨーロッパとは何か——分裂と統合の1500年』（平凡社ライブラリー、2002年）。			
成績評価の方法	平常点評価：50%、試験：50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			
オフィスアワ				

ー	
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び 実務を活かし た授業内容	
学生への メッセージ	「歴史とは過去と現在の絶えざる対話」という言葉があります。過去を知るためだけに学ぶのではない、そこに歴史学の醍醐味のひとつがあるのです。